

景況実感調査(2017年10月)特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適当な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 自動車や建設向けなどで内需が堅調な中、メーカーは店売り向けの引受け量の削減を打ち出すなどしている。高炉の供給余力は少ないのが実態で、今後在庫減少に向かうものと見られる。しかし、自動車メーカーの無資格検査問題や高炉メーカーの偽装問題など、需給バランスに大きく影響を与えそうな問題が多く、注視する必要がある。
- ② 実働21日となり、対前月比1日増。数量、売上ともに前月比10%の増加となった。材料価格の値上がりと仕事量の増加が相乗効果として数字に表れた。小ロットながら、短納期対応の可否が受注機会と利益率の向上には不可欠であり、リピート品以外の獲得を目指して行かねば2020年オリンピック以降の商売はかなり厳しい事となろう。ハイテン材や高耐食メッキ鋼板等へのリプレース提案営業や、それらの加工設備、技術の深化を進めていきたい。
- ③ 高炉メーカーより更なる値上げが実施された。その上、申込み数量のカットも行われて、先々の供給が不安である。母材コイルを大切に、安売りはせず販売するしかない。
- ④ 農機具関連以外は高水準で生産している。今年度は総じて好調維持と考える。ただし、供給面に不安を抱えている。母材の納期遅れと加工もタイト化している。
- ⑤ 引き受け量削減や転炉トラブルで、足下の在庫量は減少傾向にある。この傾向が続けば価格も、もう一段階上がるだろう。

中板

- ① 全体の稼働及び販売動向については、前月比で大きな変化は無いものの、メーカーからのコイル調達難もあってか受注加工量が需要堅調も見られる中、伸びていない。定尺市況は、各社の売り越しが強まって来ていることから下値も切り上がり、値上げも加速され、つれて先高感から二次三次特約店の在庫補充も散見される。

厚板

- ① 物件は動いているので期待感はある。しかし、値上げに対する価格転嫁が遅れている。目先は販売価格の上げが第一になっている。

开形鋼

- ① 市中相場は強含みで推移しているが、荷動きは前月と同様に弱含みだ。運転手不足によるデリバリーの混乱も解消され、加工業務は定刻で終了し、残業も無く前年とは違う。11月もこの繁忙感無き景況が続くのであれば、先行きに対する対応を修正する。
- ② オリンピック関連の物件が少々動き出してきたが、まだまだピークになるのは来年ではないか。

I-I形鋼

- ① 10月の倉出しは微増。加工の引合いが増えていて、定尺の歯抜けもあり、底堅い需要はある。メーカーの値上げ分の積み残しがあり、早急に価格転嫁していく。

異形棒鋼

- ① 土木中心に在庫販売は堅調。建築向け物件販売(直送)は引き続き不振である。とくに地方物件が少ない。

平鋼

- ① 実需も出て来たのか、荷動きは好転してきている。しかし、忙しくなるほどの動きはまだ見えない。メーカーは強気姿勢のまま。スクラップが上昇すると更なる値上げの可能性もある。まずは価格転嫁をしっかりと行いたい。
- ② 切断、加工の話は多いが、定尺出荷が少なかった。9月のメーカー値上げに伴う駆け込み需要の影響もあると思われる。

車径量開鋼

- ① 中小物件は増えて来ているが、値上げが道半ばのため苦しい状況である。
- ② 10~12月の間、スポット受注分増により増産見込み。
- ③ 受注量はやや減少。例年の繁閑サイクルから年々ズレが出て来ている状況。
- ④ 仕入の上昇に対して販売単価が追いついていない中、更なる値上げに加えて枠の削減と、より厳しい状況に追い込まれている。転嫁を急ぎたい。

鋼管

- ① 天候などの影響で、工事遅れが見られ、出荷の伸びが鈍化しているが、市況は上昇基調である。

構造用鋼

- ① 需要動向については、自動車関連部品、建設機械関連および工作機械は全般的に堅調に推移しており、とくに建設機械は中国や東南アジア向けの原料採掘用の大型機種が増加傾向となっている。各メーカーの生産は高水準が続いているが、店売りの荷動きはあまり振るわない状況が続いている。市況については、各メーカーの追加値上げに伴い、10月から再販価格の値上げを実施している。市中在庫は、メーカーの納期遅れもあり、若干タイトな状況となっている。
- ② 先月より数量は増加しているが、実感としては変わらない。

鋼材全般

- ① 運賃の値上げにより、今後、輸送費の大幅な増加が見込まれる。
- ② 10月は景気が良いが、油断できないので気を付けている。
- ③ 9月と比べて10月も荷動きに変化なし。9月よりは多少期待していたが、選挙、雨の影響もあり、期待外れの10月であった。10月中にメーカー値上げに追いつくよう努力したが、厳しい。11月スタートから積極的に値上げを実行する。

その他

<スクラップ>

- ① 10月は荷動きも悪く、価格も下がった。メーカーに関してはフル生産との情報もあるので、11月以降に期待したい。

<金属表面処理加工>

- ① 10月は予定通り紐付きは動いたが、物件物は工程遅れがあり11月にスライド。予想扱い量の20%減となる。スポットは引合い、成約ともに多い状況。オリンピック絡みの鉄骨塗装工事も多く、11月は高操業で推移しそうである。亜鉛の大幅な高騰により、ジンク系塗料の仕入れが大幅アップ。自助努力では吸収しきれず、新規見積り分より単価改定を検討中。